

# 新浦安駅前 駐輪場対策

# JR高架下用地「市が決定すればご相談に応じる」

## JR千葉支社が日本共産党に回答

週刊  
**市議会報告**  
日本共産党

07年12月17日  
第1024号  
【発行】日本共産党  
浦安市議団  
市役所控え室  
350-1243



元木美奈子  
入船4-37-14  
355-8526  
minamonton@  
jcom.home.ne.jp



井原めぐみ  
東野2-8-13  
353-4730  
i\_megumi@d8.  
dion.ne.jp



美勢 麻里  
北栄2-3-16-203  
354-9269  
m5mise@jcom.  
home.ne.jp

JR京葉線は沿線開発の進展に伴ない、輸送力の増強と安全対策などの改善が急務となっております。

「新浦安駅前の駐輪場をもっと増やして」「電車の音がうるさくてテレビも聞こえない」「最近『駅ナカ』がやはりだけれど、非常時に駅の売店で人の流れがさえぎられて危ない思いをした」などの声を市民の方からいただきました。

日本共産党市議団は十二日、JR千葉支社に伺い、こうした声を届け、改善を求めました。

### ピーク時混雑率の伸びは一番。増便を考えている「JR

#### 要望1

新浦安駅周辺に残された高架用地を浦安市に提供し、放置自転車対策をさらに強化すること



当初「駅周辺はJRの業務施設が入っている場所以外はおおむね駐輪場として使われている」との説明でしたが、日本共産党が「第三駐輪場わきの高架下（閉鎖中）はまだ空いているが、その用地はどうか」と質したのに対し、「今の段階で浦安市からの要望はいただいているが、市として駐輪場として使用することであればJRとしては問題がないと思う。ご要望があれば浦安市と個別にご相談させていただくことになる」との回答がありました。

#### 要望2

朝夕のラッシュ時間帯に増便し、輸送力を強化すること

「京葉線の混雑率は196%で首都圏で5番目。JR東日本としては180%まで下げることが目標としている」「京葉線の乗客数の伸び率は線区としては最も増加している。ご利用が増えていることは十分認識しており、輸送力を増やしたい。本社にも優先順位を上げるように千葉支社として要望もしている」とのことでした。

#### 快速を増便の方向で

「各駅、快速、通勤快速、特急とある中で、快速が一番混んでいる。快速を増便の方向で考えている。現在1時間19本だが、技術的にはあと2〜3本増やすことはできる」と増便に向けて検討中であることを明らかにしました。

#### 要望3

新浦安駅発着時の騒音の軽減対策を講じること

「騒音の原因としては、ホーム2本に対し線路が4本あるため、ふりわけるための切替ポイントや線路の継ぎ目を通過する際、ブルーの重たい車体が通過する際、特急通過の際などが考えられる」とのことです。

#### レールの継ぎ目をなくし車体を軽量化

「騒音を軽減するため、溶接でホームの継ぎ目をなくす努力をしている。車体を軽いタイプのステンレス製に順次切り替えていくことも対策の一つ。ポイントは必要な施設でなくすことはできないので「理解を」と一定の努力で騒音軽減に取り組む姿勢が示されました。

#### 舞浜駅のホームの拡幅

「デイスニーシーの開園の際、北口改札設置やコンコースの面積を広げたり、朝と閉園時間に合わせて駅員を増員するなどの安全対策はとっている」としつつも「ホームの拡幅は困難」との考えが示されるにとどまりました。

#### 駅構内への売店出店を自粛し、緊急事態発生時の安全対策に努めること

地震や停電などの緊急時、構内の売店が邪魔になり危険な状況となることへの対策を求めたのに対し、「非常時には構内への入場制限で安全対策をとっている」とし、売店設置の自粛の方向は示しませんでした。



JR千葉支社前で  
右から元木、井原、みせ議員

# 深刻な医師不足と医療崩壊の打開に向けて 日本共産党は提案します



**市民病院が民間病院に診療科目も縮小の方向！？  
政府は医師数抑制路線を改め、本腰で対策を**

深刻な医師不足のあおりを受け、患者数減少が続く浦安市川市民病院。老朽化した病院建替えを機に、再整備の方法が検討されてきましたが、今月27日の病院組合議会12月定例会に先立ち、8日に開かれた同議会の全員協議会に示された「浦安市川市民病院再整備に係る検討委員会報告書」では、今後の整備方式を「民設民営」とし、「診療科目の削減縮小」「病院施設建替え」などの方向が出されました。

**医師不足のおおもとに  
国の医療費削減政策が**

政府がこの間、医学部の定員削減を閣議決定までして医師の養成を抑制してきた結果、日本の臨床医師数は人口10万人あたり200人でOECD加盟国30ヶ国中27位の低さに。

市民病院設立者である浦安市も市川市も、今やらなければならぬことは、公立病院をなくすことではなく、国や県に抜本的対策を強く迫ると同時に、みずから医師確保に全力を尽くすことではないでしょうか。

この問題を本当に解決するためには、医療・社会保障を再現なく切り捨てる政治を転換し、政府が国民の命と健康を守るという本来の責任を果たすことが必要です。



**医学部定員増など抜本的増員を**

異常な「医師数抑制」路線を改め、計画的な増員をはかります  
医師不足が深刻な地域については医学部定員をただちに増やすとともに、地域枠・奨学金などで地域への定着をはかるようにします

**安心して働ける環境整備を**

医師数の抜本的増員とともに、看護師・スタッフの増員、病棟薬剤師やケースワーカーの配置基準の確立と財政措置など、勤務医の過重負担を軽減する支援策を講じます  
女性医師の産休中の身分保障や妊娠中の当直免除、育児休業をとった医師の代替要員・現場復帰の保障など、家庭生活との両立を国として支援します  
医療事故をめぐる訴訟の急増が医師のストレス、リタイア促進の要因となっている点を重視し、医療事故の原因を客観的に究明する第三者機関、幅広い医療事

**産科小児科確保の緊急対策を**

産科、小児科の診療報酬を緊急に引き上げ、出産一時金を大幅に増額します  
助産師の養成数を増やし、「院内助産所」の設置、参院産科と助産院のネットワーク化など、医師と助産師の連携を支援する対策を推進します

**全国的な医師派遣システムを**

国と公的医療団体でつくる「地域医療支援中央会議」の機能を強化し、全国的な医師派遣システムを確立します  
公募などで医師を確保する「プール制」「ドクターバンク」、医師不足地域で働く医師のローテーション確保、研修や学会参加の保障、手当ての割り増し支給など、都道府県のとりにくみに対し、国が財政支援を行うようにします

**< お詫びと訂正 >** 先週号(1023号)の「後期高齢者医療制度意見書」の記事中「異議あり」とすべきところ「意義あり」となっていました。お詫びして訂正します。

今年はいっせい地方選挙、参議院選挙とみなさまには大変お世話になり、ありがとうございました。  
4月の市議選で現有3議席を再び与えていただき、5月の臨時議会に始まり、6月・9月・12月と定例会を重ねてまいりました。「市民が主人公」の初心と原点をつらぬき、みなさまと力を合わせてよりよい市政をめざしてこれからもがんばります。  
今週号で今年最後の議会報告となります。新年は1月7日号より発行いたします。どうぞよいお年を！

